



もいおかYMCA ニュース



第3回

YMCAフットサル大会開催

もいおかYMCA第3回フットサル大会が

2月20日(日)、勤労者共同福祉センター体育館で開催されました。フットサルは室内で行われるサッカーで、出場人数は6名です。雪や氷でグランドコンディションが悪くなるこの季節、もってこいのスポーツと言えるでしょう。

当日は、幼児から社会人まで約70名、12チームの参加があり、年齢ごとに3つのリーグに分かれて合計22試合の熱戦が繰り上げられました。

中でも、午前中に行われた幼児、小学生低学年の子供達による、リトルキッズリーグには、お父さんチームも参加。遠慮がちにプレイするお父さんを横目に子供達は大ハッスル。次々と放たれる子供のシュートのたびに会場は歓声に包まれていました。

午前中第5試合、両チームのゴールを守るのは奇しくも及川さん親子。



幼児よ来たれ！ 中津川サッカー教室

大槻、斉藤、千尋、小野寺、美穂、幸子、翔、リーダー



小学校高学年、ビッグキッズリーグの閉会式。今大会は、勝敗にこだわることなく、純粋にサッカーを楽しむことを重視した大会ですので、成績発表はなく、記念品を受け取って最後に、記念写真をパチリ。

毎週、土曜日に行われている中津川サッカー教室。授業がないということもあってリーダーが勢ぞろい。時にはOB、OGの中学生、高校生も登場します。平均7名のリーダーが子供達と一緒に汗を流しています。

ところが、中津川のサッカー教室、幼児のクラスは現在、2名。リーダー指導者の方が圧倒的に多いという抜群の環境です。女の子も大歓迎！お友達がいたらご紹介ください。

地の塩

滝沢で、英会話を教えているグリフィスさんもケニアからの留学生。もいおかYMCAニュース第2号で紹介したシタンダさんの後輩だ。

彼の話によるとケニアには四季がないという。日本の秋ぐらいの気候が一年中続くらしい。だから、春、夏、冬は日本に来て初めて経験したということだ。

冬という概念は本で読んだり、テレビを見たりして頭の中でイメージしていただけだったので実際経験してみると大違い。そもそもマイナスの温度の中で人間が暮らしていることが信じられなかったようだ。

嬉しい意味でのイメージと現実のギャップは秋だ。日本のじつりした夏が過ぎ、乾燥した天候が続く中で、街路樹や山々の木々の葉が色づき始める。岩手の紅葉は殊のほか彼を感動させてくれたと言う。

「頭の中のギアをニュートラルに」国際理解をする上で、滋賀YMCAの先輩から言われた言葉だ。異なった自然、文化、価値観の人々を理解する上で、自分の頭の中のギアを入れっぱなしにしておいては、なかなか理解は生まれてこない。むしろ、頭の中をニュートラルの状態にして、そこで自分が感じたこと、体験してことを大切にしながらジワジワと理解されてくるものらしい。

他者を理解することも同じだ。固定観念に縛られることなく、自分で体験し、感じる中から本当の理解が生まれてくるのだと思う。自分の経験したことのない環境、価値を受け入れる力、他者を理解する力「それがいま盛んに言われている。「生きる力」の源のような気がする。

グリフィスさんは盛岡での2度目の冬を乗り越えようとしている。

